

## 議題2 スマートフォン等の適切な使用に向けた取組について

令和2年1月 総合教育会議

◆ 市長より、児童生徒のスマートフォン等の利用実態やルールの必要性について言及。



- ◆ 教育委員会事務局内に「小中学校の携帯電話・スマートフォン等対策検討WG」を設置。
- ◆ 児童生徒のスマートフォン等の使用状況を把握し、その過度な利用を抑制し、有効な活用方法を推進するための一定のルール化を検討。

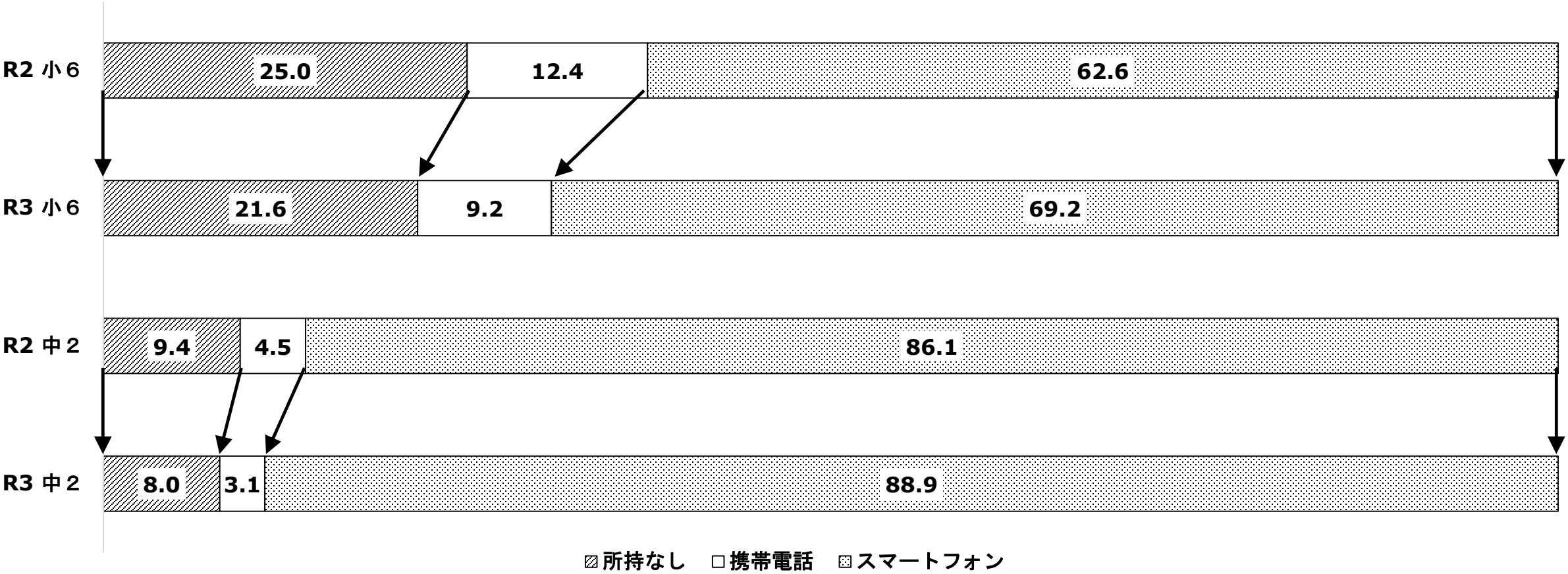
⇒ 児童生徒を対象としたアンケートを実施

○ 実施期間：① 令和2年7月（臨時休業期間明け直後） ② 令和3年3月（年度末）

○ 対象者：① 大阪市立 小学校 5,6年生 731人・中学校 1～3年生2,571人 計 3,302人  
② 大阪市立 小学校 6年生 17,062人・中学校 2年生14,817人 計31,879人

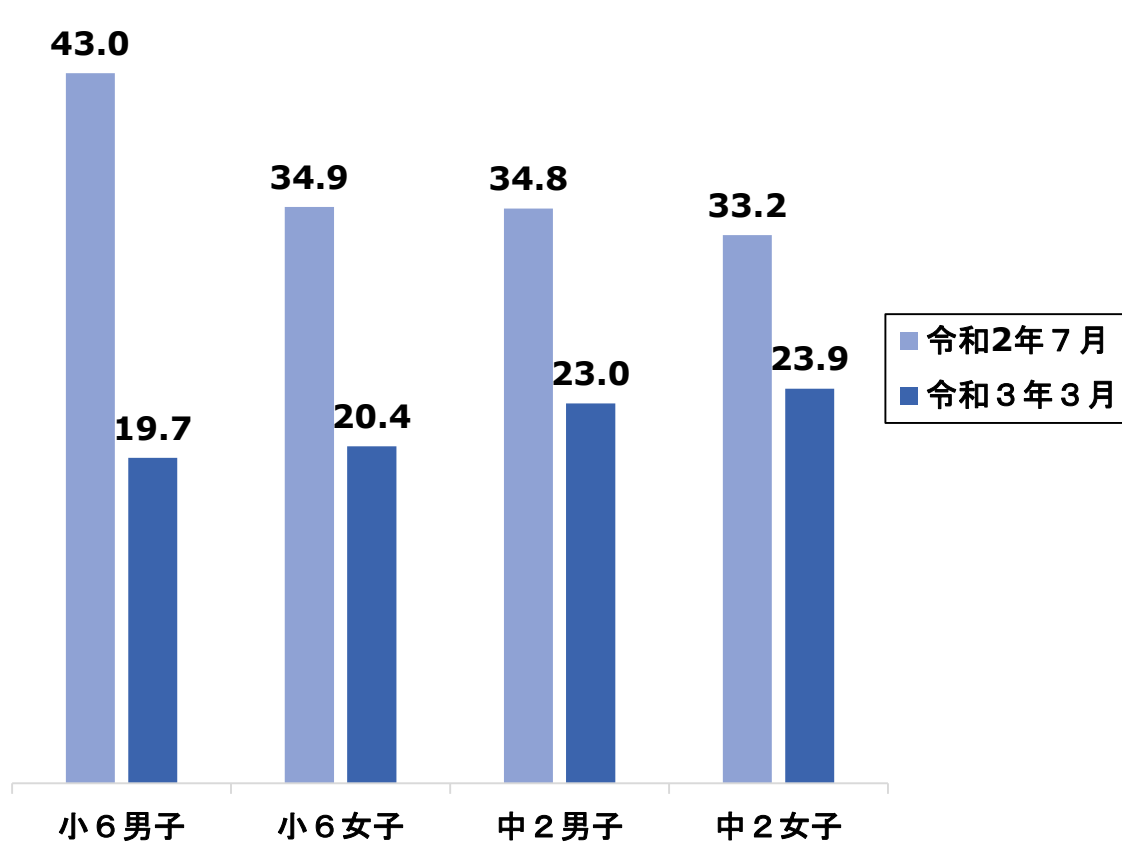
# アンケート調査の結果

携帯電話・スマートフォンの所持率

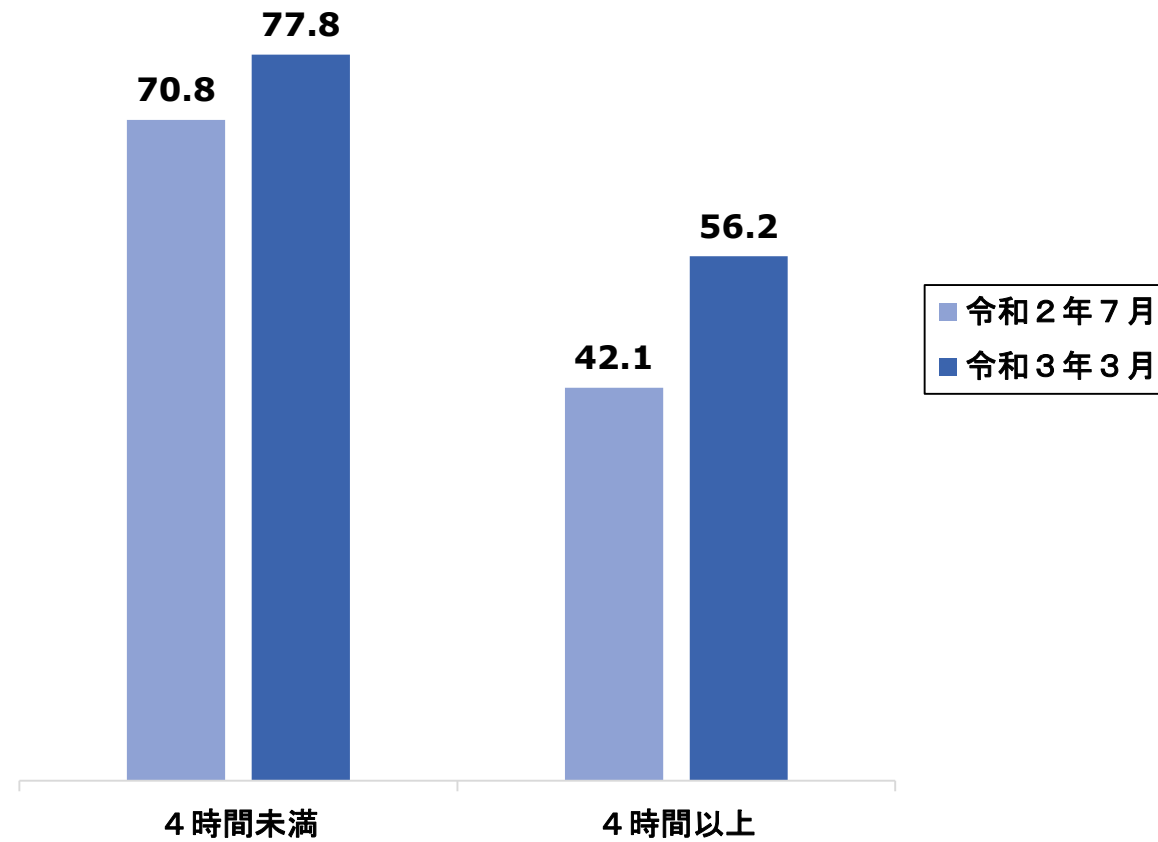


## アンケート調査の結果

ネット接続時間が4時間以上の児童生徒  
(%)

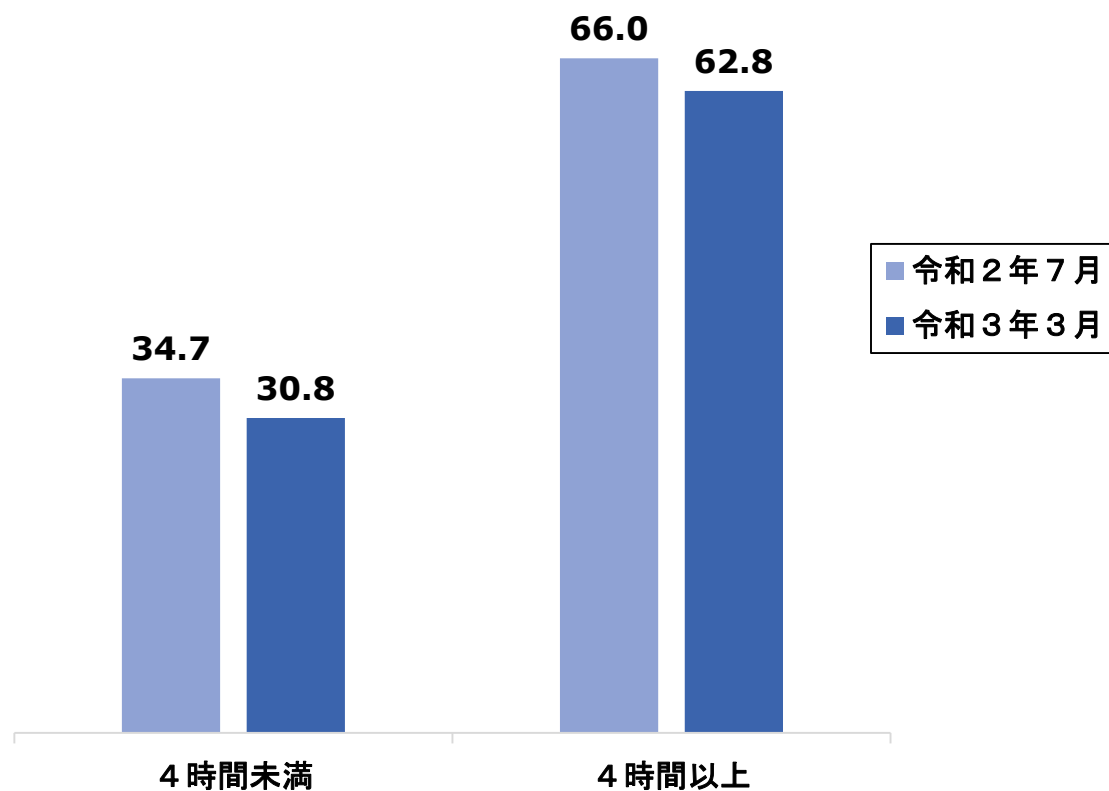


朝食を必ず食べる (%)



## アンケート調査の結果

就寝時刻が12時以降の児童生徒（％）



### ネット使用時間と生活習慣

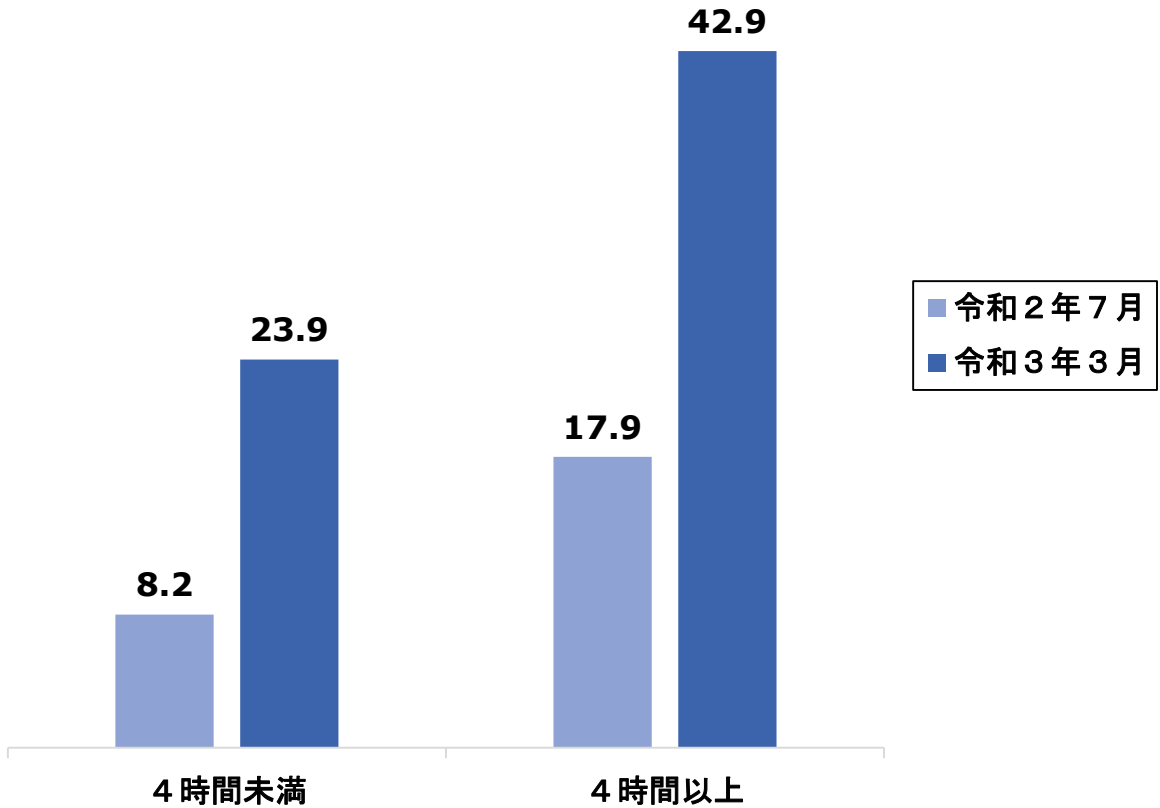
- ・ 4時間以上、ネット接続する者が減少
- ・ 朝食を食べる者が増加
- ・ 就寝時刻が0時以降の者が減少



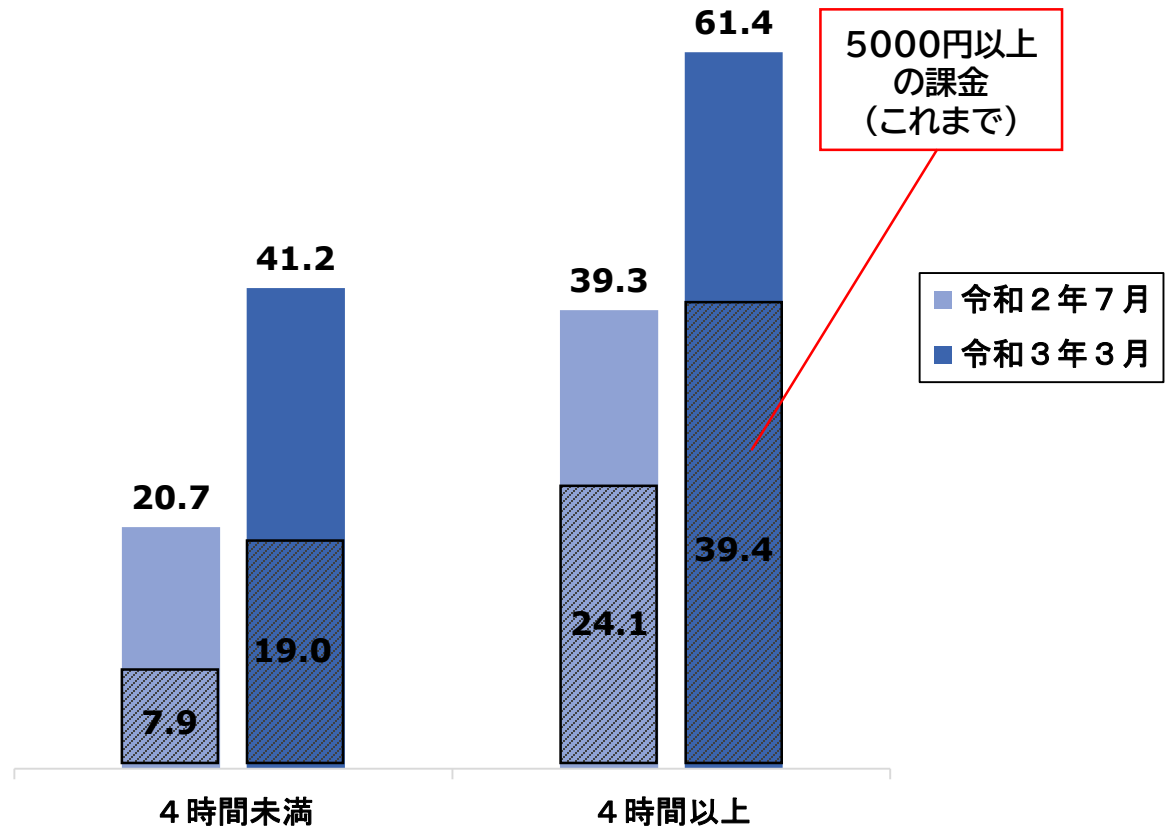
臨時休業期間明けよりも若干ではあるが、生活習慣等については改善しつつある。

# アンケート調査の結果

ネット上でケンカを経験がある児童生徒  
(%)

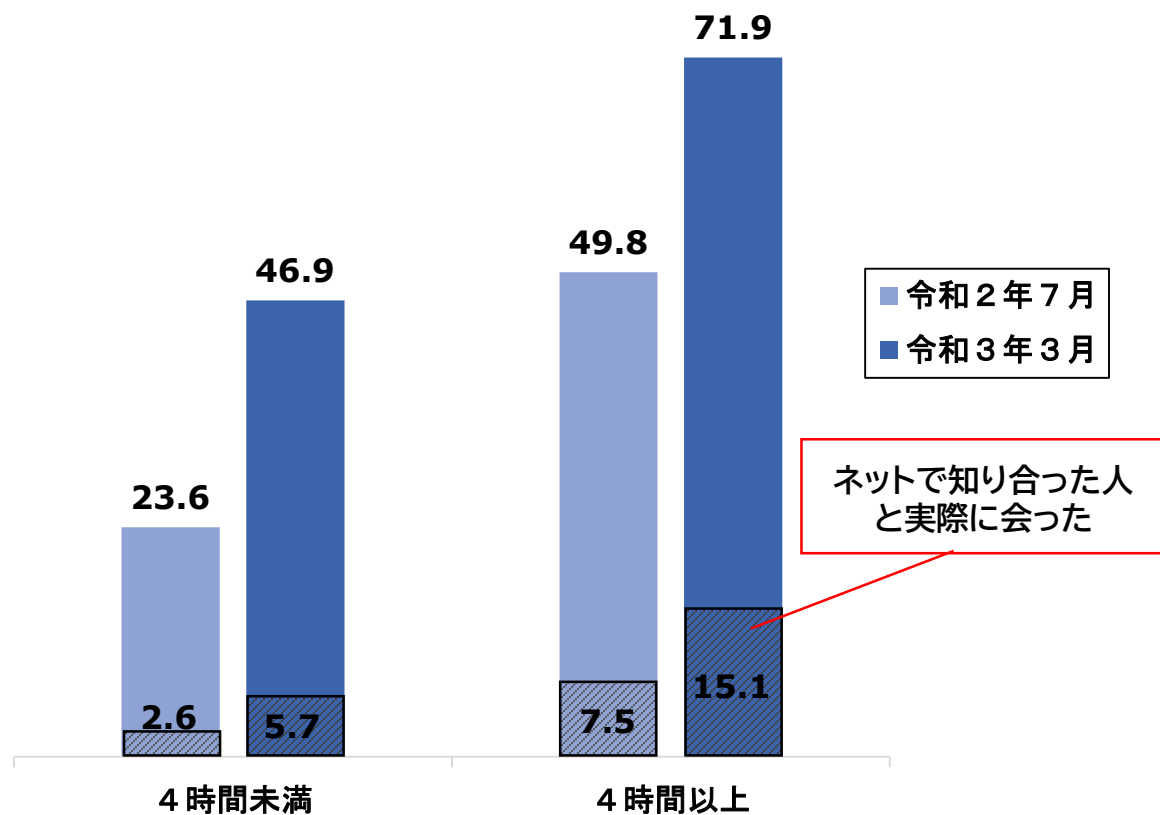


ネット上で課金経験のある児童生徒 (%)

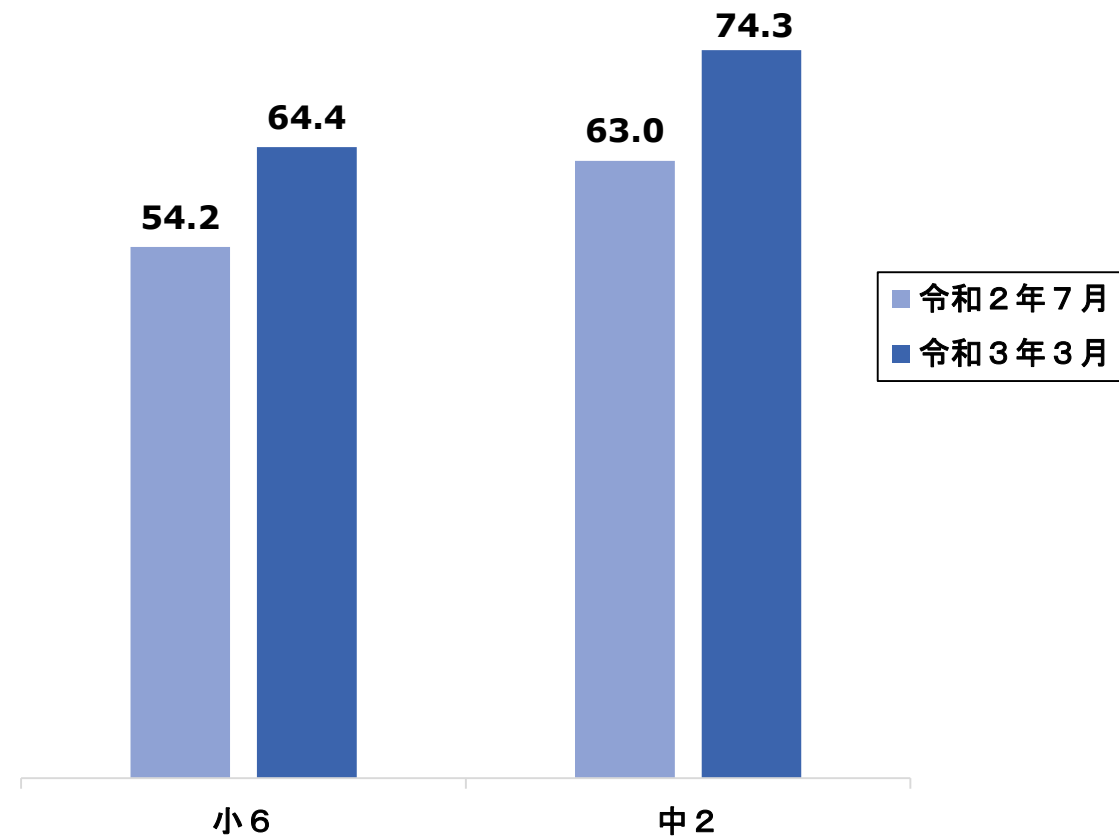


## アンケート調査の結果

面識のない人とSNS等でやりとりの経験がある児童生徒（％）

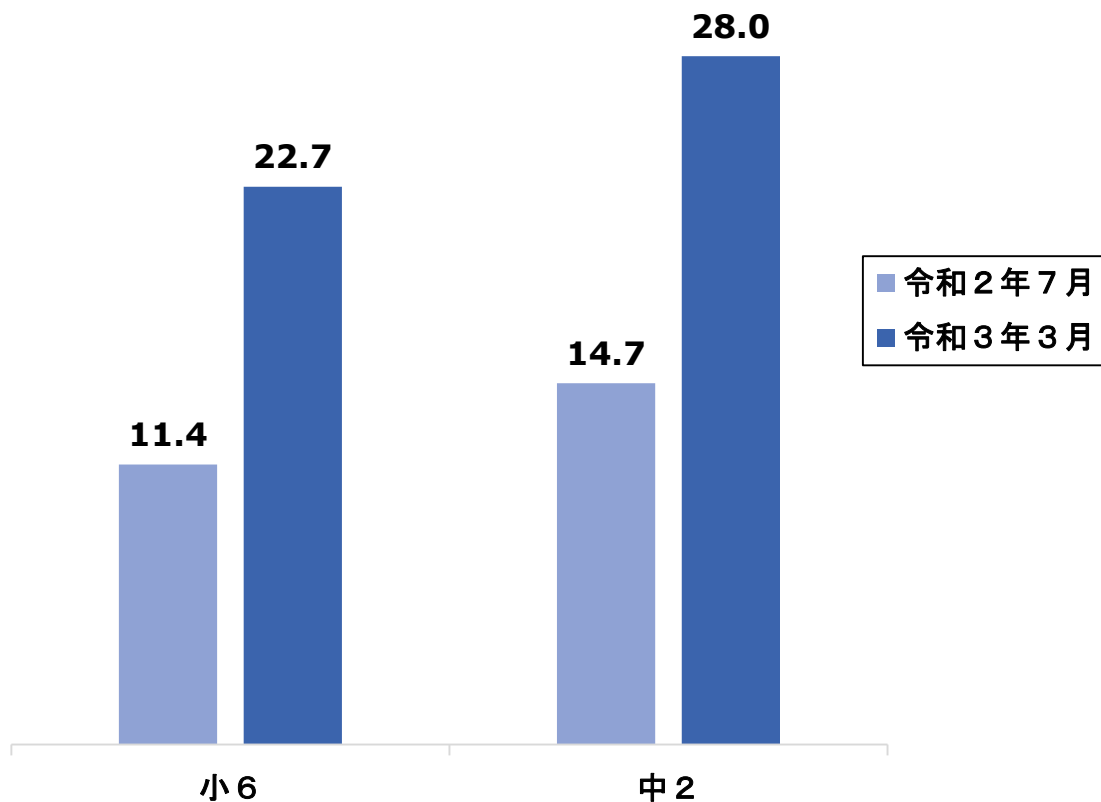


家で1番することがネット（％）



## アンケート調査の結果

ネット依存傾向がある児童生徒（％）



### トラブルの経験等について

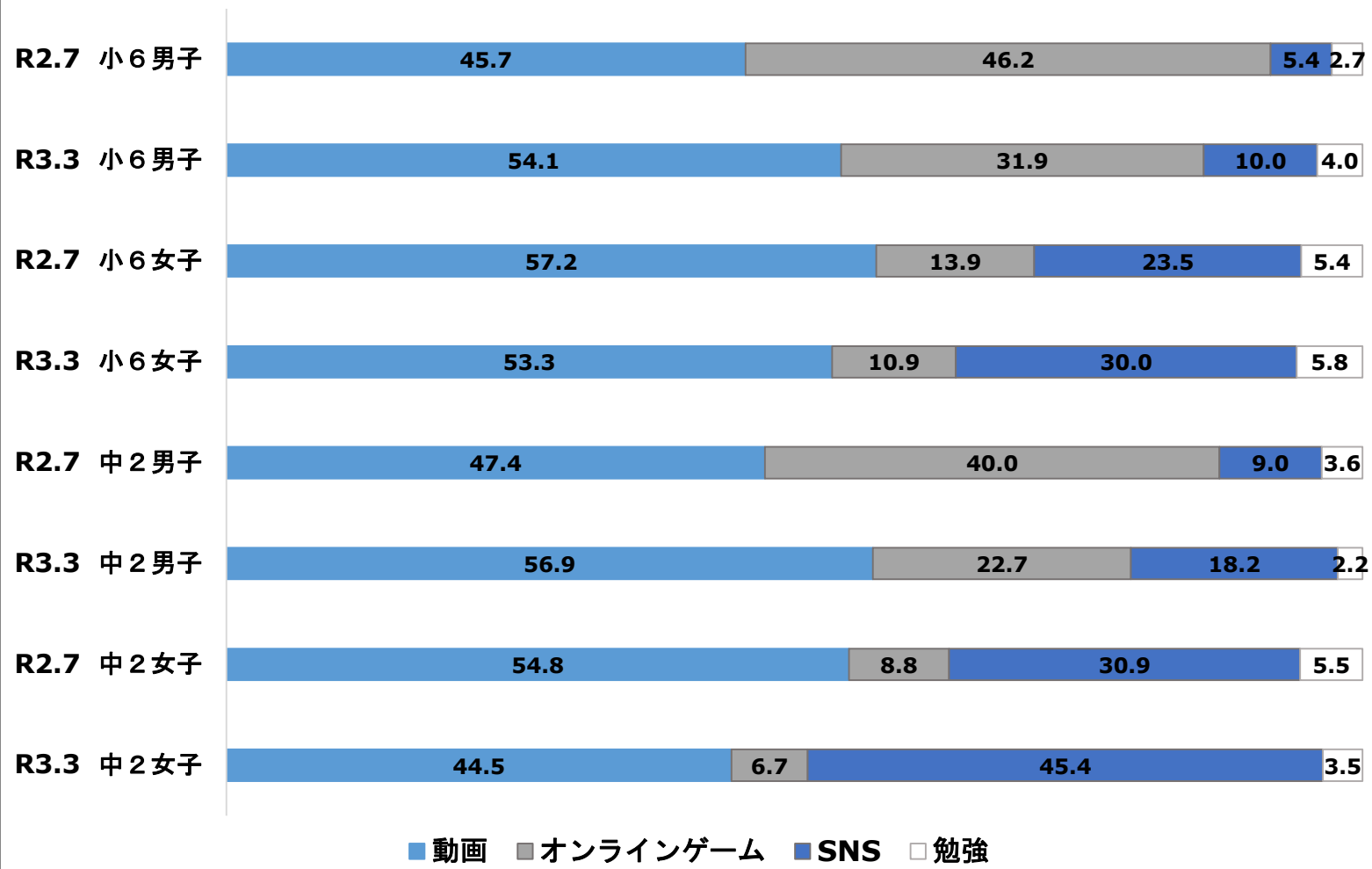
- ・ ネット上でのケンカ経験が、2倍以上
- ・ 課金の経験のある児童生徒の大幅な増加
- ・ 課金が5000円を超える児童生徒も増加
- ・ 面識のない人とのやりとり経験の増加
- ・ 家で1番することがどの学年でも「ネット」
- ・ ネット依存傾向にある児童生徒が増加



「ネット」に関するトラブルが激増

# アンケート調査の結果

ネットで1番していること (%)



- 小6男子
  - ・ 動画視聴、SNS 増加
- 小6女子
  - ・ SNS 増加
- 中2男子
  - ・ 動画視聴、SNS 増加
- 中2女子
  - ・ SNS 増加



# ネット依存傾向を測るための指標

## キンバリーヤング博士のインターネット依存度テスト「DQ」

- 厚生労働省研究班が2017年度に実施した全国調査に採用
- 「はい」と答えると1点を付与し、0～8点に分類。
- 点数が高い方が依存傾向が高いと仮定。

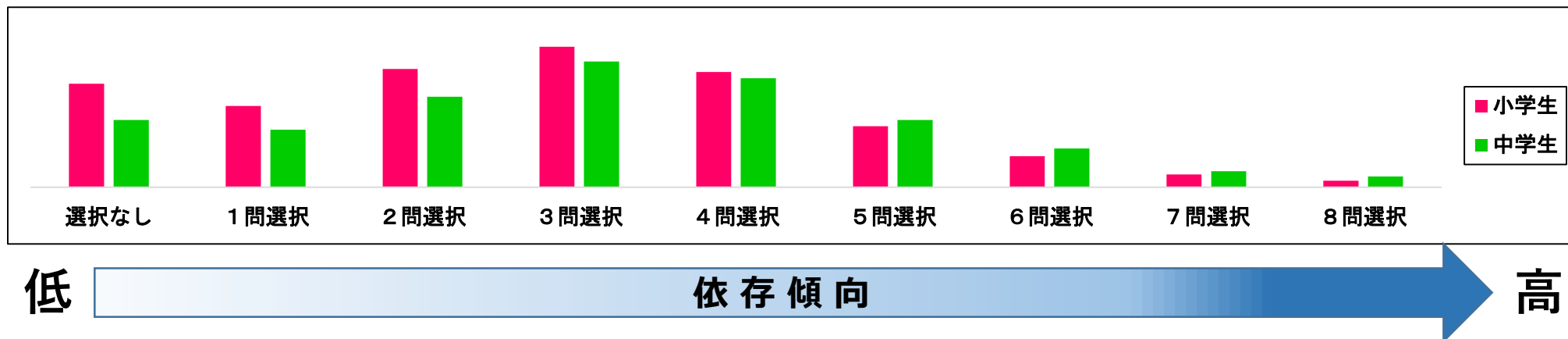
※キンバリーヤング博士

インターネット依存症やオンライン行動についての専門家であった心理学者。

**判定基準** : 該当数 2 以下 適応使用者  
                  該当数 3 ～ 4 不適応使用者  
                  該当数 5 以上 ネット依存が疑われる

### 【設問】

- ① ネットに夢中になっていると感ずることがある
- ② 満足するためにネットする時間を長くしたいと思うことがある
- ③ ネットの時間を減らそうとしてうまくいかないことがある
- ④ ネットの時間を短くしようとするとうち着かなかたりイライラすることがある
- ⑤ 予定していたより長くネットをしてしまうことがある
- ⑥ ネットのせいで人間関係がうまくいなくなってしまうことがある
- ⑦ ネットに夢中なのを隠すために家族や友達にうそをついたことがある
- ⑧ 不安や落ち込みから逃げたくてネットを使うことがある



## ネット依存傾向と視力の関係

